

山行報告書

| | | | |
|--------|---------------|---------|-----------|
| 受付 No. | 17 | 登山地・ルート | 聖岳（小聖岳まで） |
| 目的 | 春山に向けてのトレーニング | | |
| メンバー | 大山 | | |
| 行動記録 | | | |

| 月 日 曜 | 天候 | ポイント地点・所要タイム |
|--------|----|--|
| 4・17・日 | 晴れ | 浜松＝便ヶ島～西沢渡～ 薊畑 ～小聖岳～ 薊畑 ～西沢渡～便ヶ島＝浜松 6:43 7:16 11:22 12:54 13:57 16:21 17:05 |
| | | |

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

【浜松～登山口】 例のごとく自宅で仮眠を取り、例のごとく目覚ましは鳴ると起きるのが億劫で山行中止を考えつつもだったら二度寝してしまうところだが、前夜に見た高気圧に覆われた予想天気図が頭を離れず1時間以上遅れて自宅を出発。今山行最大の核心である便ヶ島までの林道は無事通過。易老渡の駐車場に1台、便ヶ島にも自分の車の他は、小屋の車だけだった。

【登山口～薊畑】 第二の核心の西沢渡の通過も、なんと沢に橋がかかっており、荷物渡し籠に乗ることなくあっさり通過。ここまでで今山行の8割は成功した気分になる。標高1800mくらいまで雪はなく、1800mを越えると登山道に氷が出てきてやがて氷の比率が高くなってきたところでアイゼン装着。2000mを越えると雪が多くなり、踏み抜きもひどいのでスパッツを着ける。雪面に所どころ古いトレースが薄く残っているが関係ない。トレース跡に乗っても踏み抜いて浅くて膝上、深いと股下まで雪に潜る。おかげで最初10時と見積もっていた薊畑到着が11時過ぎになり、足もつってきた。

【薊畑～小聖岳】 しかし期待を裏切らない天気と展望に満足しつつ、強い日差しに稜線の雪も、樹林帯ほどではないが踏み抜き、足のつりをだましまし登っているのに、踏み抜いてバランスを崩すと上体は前につんのめり足は雪にロックされているから、つった所が無理に伸ばされて激痛が走る。やがて尾根が痩せてきて木の上に積もった雪の上を行くようになるとますます踏み抜きを警戒して慎重に歩く。そこを通過し、小聖岳の登りの辺りからようやく踏み抜きがなくなり、小聖岳に到着。時間と体力のリミットで、まだ先に大きく聳える聖岳を眺めながら休憩して下る。

【小聖岳～登山口】 下る頃には光岳の辺りに雲が浮かび全体的に暗くなってきた感じだった。薊畑までは割りと順調に下る。しかし薊畑からの樹林帯は、午前中よりもさらに雪が緩み、踏み抜きも激しくなって全然ペースが上がらなかった。振り向くとぼこぼこのトレースが悪戦苦闘を静かに物語る。結局、2000mを切って積雪が減るまで踏み抜きとの格闘だった。凍結箇所を通過した後アイゼンを外し、西沢渡でアイゼンやスパッツの泥を洗う。西沢渡から登山口までの遊歩道は土砂で埋まっている箇所が何箇所もあり、そのうちの一箇所は、通過しようとする目の前で小さな崩落が起こり、上から落石もばらばらと落ちてきたので収まるまで待つ。しかし通過した後、また背後で音がするので振り向くと再び崩落が起こっていた。気温が上がって起きているのだとしたら帰りの林道は大丈夫だろうかと心配したが、無事通過し帰宅できた。下山後に聞いた小屋の人の話では、ここ最近の入山者はないということだった。

紙面不足の場合は裏面へ

| | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|---|---|---|-----|--|
| 報告者 | 大山 | 受付 | 平成 | 年 | 月 | 日 | 受付者 | |
|-----|----|----|----|---|---|---|-----|--|



西沢渡の橋と荷物渡し籠



小聖岳の山頂の向こうに大きな聖岳
南面のせいか雪がだいぶ解けている



上河内岳…行きたい



来た道を振り返る



稜線の向こうの聖岳



埋まった歩道。こんな箇所がいくつもあった